

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691000135		
法人名	株式会社 天正		
事業所名	イエローガーデン高瀬		
所在地	富山県南砺市北市256番1		
自己評価作成日	平成27年8月3日	評価結果市町村受理日	平成27年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成27年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」を大事に日々関わっています。共同生活の中でも利用者一人ひとりが自由に楽しく、協力して出来るように職員一同取り組んでいます。利用者が主体的で、毎日の掃除や家事、食事準備を利用者同士で分担し協力しながら行っています。ボランティア精神旺盛で利用者にちょっとでも楽しんで頂きたいと思っている職員が多く、笑顔が絶えない事業所です。職員の一員で猫の“花”がみんなの癒しになっており、和やかな雰囲気を作り出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が主体性をもって行動できる環境づくりや取り組みの工夫をし、利用者の持っている能力を最大限に活かせるような支援している。取り組みの一つとして「朝の掃除」があり、利用者と職員は互いに協力し、会話が弾みながら事業所内を清掃している。職員は、事業所理念に基づき、利用者が自分らしく笑顔で過ごせるよう、支援することを心掛けている。また、事業所には今年飼ったばかりの猫がおり、利用者に癒しと安心感をもたらす存在となっている。職場は職員同士のコミュニケーションが円滑で、職員間で分からないことや不安なことがあるときには、管理者や他の職員にすぐに相談できるなど、風通しの良い職場環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」を掲げ、理念に沿ったケアを目指しています。ミーティングの初めに理念を確認してからケアについて話し合いを行ってます。	理念「尊厳を守る」について、具体的にどのような支援を行ったらいかがを、職員一人一人で考えた上で理念に基づいた目標を職員全員で話し合い、実践につなげている。理念「感謝」「楽笑」についても、具体的な基本方針を、いつでも確認できる場所に掲示し共有を図り、意識しながら日々のサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に住むスタッフが5名いることで、近所の方がボランティアに来てくれたり、見学など入りやすい環境になっています。地域に開かれた事業所を目指しています。	地域住民と散歩の際に挨拶を交わしたり、旬の野菜を頂いたりしている。買い物は地域の商店するなど、事業所側から積極的に地域の方との交流を図ろうとしている。また、地域の方から、「施設にボランティアに行きたい」と希望され来ていただくなど、地域との交流が少しずつ増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている区長や民生委員、ご家族様を通して日頃の関わりや活動を報告し意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに開催し、行政、区長、民生委員、ご家族に出席して頂いている。運営状況や活動内容を報告し、今は一年目のため、まずは事業所を知っていただくことを中心に意見交換を行っている。地域に関わる情報を教えてもらいながら、サービス向上に努めていきたい。	隔月開催の会議では、事業所の取り組みやサービス内容についての意見交換や、地域の情報を得ている。開所して一年目のため、推進会議を通して、家族や地域の方に事業所の実状を知っていただき理解を深めてもらう機会となるよう努めるとともに、地域との交流を深めるため会議で得た地域行事などの情報を事業所のサービスにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や南砺市が主催の事業所連絡会に参加し協力関係を築けるように取り組んでいる。	南砺市主催の事業所連絡会に参加し、連絡事項の確認や研修会等に参加し、市と協力体制を築けるよう取り組んでいる。不明な点や不安材料がある時などその場で相談し、助言をもらうなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の目のつくところに行動指針を掲示、オープン前や入社時に研修を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	自施設で身体拘束防止についての研修を行い、全職員へ理解と周知を図っている。また、日頃よりどのような行為が身体拘束にあたるか、職員同士確認しながらケアに努めている。言葉遣いなど不適切な対応が見られた場合は、職員間で話し合い、そのような対応になった理由を聞くなど、自らが考え振り返りを行うよう導き、職員間の意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動指針やマニュアルを通して内部研修を行い、虐待のないケアに取り組んでいる。また、入浴時は体表観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後職員も学ぶ機会を設け、必要な方がおられたときに活用できるように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の申し込みや、契約時に説明を行ったうえで不安や要望を聞き、理解・納得できた段階で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的にコミュニケーションを図り、意見・要望の聞き取り、反映できるように心掛けている。	ご家族が面会時の際に、職員から積極的に声をかけるようにしコミュニケーションを図り、意向を聞くようにしている。その時に聞き取った意見要望は職員全員で共有し、意向に沿った支援を行うようにしている。	家族が遠方におられる場合など、あまり面会にすることができない方からの意見や要望を聞き取る工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、事業所の全体会議を行い職員の要望や意見を取り入れ反映させている。	管理者は日頃より職員との円滑なコミュニケーションを取ることを心掛け、職員は直接管理者に意見提案が言いやすい環境にある。表出された提案事項は、月一回の事業所全体会にて検討され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、個々の能力に応じた待遇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後個々の能力に応じ、事業所内外で研修の機会を設けていきたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる事業所連絡会に参加し情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の様子を観察し、不安そうな表情や要望があれば傾聴し、少しでも安心して生活できるような関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に家族の意見・要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時の思いや、ケアマネージャーさんからの情報をもとに入居時からの必要なケアが行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅にいた時と同じような過ごし方ができるよう関わり、家事や農作業など人生の先輩として尊重し、教えてもらいながら共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時、美容院など家族の協力を仰ぎながら共に支えていけるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪ねてこられたり、馴染みの美容院、お祭りや習慣を継続できるように家族に協力してもらいながら支援に努めている。	お盆のお墓参りやお祭りなどの時には、家族の協力を得て外出や外泊を支援し、文化的慣習の継続や利用者との馴染みの人や場所が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、フロア関係なく関わり合い、支えあい、楽しむことができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、ケアマネージャーさんやご家族と関係性を大切に、必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にセンター方式アセスメントシートBの記入を依頼し、利用者の今までの生活習慣やこだわりなどの情報を収集して個別ケアに生かすよう取り組んでいる。また、日常の関わりや会話の中から要望や希望の把握に努めている。	入居時に、家族に記入してもらったアセスメントシートをもとに、日常の利用者の言動や行動と照らし合わせながら思いや意向を把握し、本人本位の支援となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のアセスメントを通して、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしが今後も継続できるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、定時のバイタルチェック、職員の申し送りを行い、日中の関わりの中で変化がないかなど、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の要望、ニーズに沿った計画を作成できるよう努めている。	把握した意向と本人の状態を合わせ、できる限り本人の思いに沿った支援が行えるよう介護計画を立て、実践している。また、本人の心身状態の変化に応じて、その都度介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを個人記録に記入し、職員間で共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズや家族の状況により、買い物、病院搬送など柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩で花をもらったり、近所の職員の畑に行き野菜をもぐなど、今まで楽しんでいたことが継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医を選択してもらっている。協力医とは、月1回の往診や24時間連絡体制をとり、適切な医療が受けられるよう支援している。	契約の時に、説明したうえで、かかりつけ医を、事業所の協力医とするか、利用者や家族の希望の病院とするかを選択してもらっている。協力医以外の受診には、家族に付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が出勤し、健康状態の把握や利用者、職員からの報告、相談をうけ適切な医療、看護が受けられるよう支援している。24時間の相談、連絡体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や家族と連絡体制を密にとり、情報交換を行いながら、早期に入退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、今後、本人や家族が看取りを希望される場合は、早い段階から医師、看護師とも話し合いを行い、希望する形で最期を迎えることが出来るよう取り組んでいきたい。	看取りに関する指針が作成されており、利用契約時にそれに基づいた支援体制について説明し、本人や家族に了解を得ている。利用者の心身状態の変化に応じて、本人、家族、主治医、事業所で連携し、本人や家族の意向に沿えるようチームで取り組む体制づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議でも意見交換や確認を行い、緊急時対応できるよう意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月のオープン前に消防署の協力を得て、火災訓練を実施した。今後は年2回の訓練や近所の方にも参加して頂けるよう呼びかけを行っていききたい。	年2回の訓練実施を計画しており、次回は10月に実施予定である。今後も近隣住民へ訓練参加への呼びかけを行い、自主訓練を行っていく予定で、地域の方に災害時の避難場所を確認したり、水や食料の備蓄の充実を図るなど、体制づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人なりの人生の歴史を想い、受け入れることを基本とし、関わり方や声掛けを日々見直している。	利用者個々の誇りや人格尊重に配慮したサービス提供に努めている。特に、排せつや入浴の際は、同性での介助とし、言葉掛けも尊厳を守るよう心掛けている。また、訪室時する際にも、本人に了解を得て訪室するなど、プライバシーの確保にも配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定、自分らしさを持った生活を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、できることを取り上げ、待つことや協力することで、その人らしい暮らしが送れるよう支援している。利用者の希望があれば、優先するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、爪切り、着替え時等は働きかけ、美容師の訪問時には希望通りのカットを行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や冷蔵庫の材料をみながら、利用者と一緒に献立を決め、利用者のできる調理や盛り付け、配膳、後片付けを一緒にやっている。	週2回、利用者と職員が共に買い物に出かけ、食材を選び、毎食、一緒に材料を見て何をつくるか相談し、献立を決めている。調理や盛り付けなどは、本人の意向を伺いながら、したいこと、やりたいことを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排尿の状態、気温などを観察し、その方にあった食事や水分、おやつを提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声掛けを行い、支援が必要な方には職員が能力を引き出しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や排泄習慣により、声掛けを行っている。出来るだけ、トイレで排泄できるよう支援している。	できる限りトイレでの排泄が継続できるよう、排泄シート等活用し排泄パターンを把握し、本人の些細な行動やサインをキャッチし、さりげない声掛けでトイレへ誘導するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し、主治医に相談し、便秘予防に努めている。また、個々の状態に合わせ、水分多めの食事や食物繊維、牛乳やヨーグルトなど薬以外の摂取で便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度入浴の曜日、時間は決まっているが、個々の状態に合わせて時間を調整し、出来るだけ希望に沿った入浴ができるように支援している。	最低週2回の入浴を目安に、利用者の状態や希望に応じていつでも入浴できる体制をとっている。今後、柚子や菖蒲を使った季節風呂の提供や入浴剤による色や芳香、肌ざわりなどを楽しむ入浴の工夫に取り組む予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りにつきやすいように必要最小限以外の電気は消し、眠れない場合等は無理に横になってもらおうとはせず、そっと見守っている。空調などの環境維持にも心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常日頃から病歴、薬情の把握、確認を行い、体調の変化があった場合には、主治医と連携をとり適切な服薬ができるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、その方との関わりで、出来ることを増やし、気分転換、やりがい、得意なことの継続など、日々が楽しめるよう支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ドライブ、外出など家族の協力を得ながら、可能な限り出かけられるよう支援している。	日常的に近所に買い物に出かけたり、近隣を散歩したりしている。また、天候や利用者の心身状態に合わせて少し足を延ばし、地域の名所や行事に出かけたり、季節ごとの花見や紅葉狩りなど、外出の機会が多く持てるような取り組みを行い、利用者の方に出かけることの楽しみを実感できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に合わせ、出来る方には、自分で小遣いをもって買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話できるようになっており、本人が安心できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	景観を大切にしながらも、カーテンを使い、空調や気温、湿度等で快適に過ごせるように配慮している。	家具の色や壁色が茶色と白色でまとめられた共用空間は清潔感が感じられ、掲示物をあえて多くを飾らない室内は、落ち着いた雰囲気である。事業所に飼われている猫の「花」を利用者も受け入れ、共に生活することで、心理的に好影響をもたらし、利用者に癒しを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合った利用者と会話したり、和室で横になったり、家庭的な雰囲気を作り、それぞれが居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っておられたものや、飾っていたものを持ち込んで頂き、その人にあった居心地のよい空間になるよう工夫している。	一人ひとりの志向に基づいて、大切なものや使い慣れたものなど、ご家族や近親者の協力を得て持ってきていただき、慣れ親しんだものの中で安心して過ごせるようにしている。また、家族の協力のもと、自宅の居室環境に近づけるよう、家具やベッドの配置に配慮するなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状況により、ベッドや家具の配置を工夫し、安全に自立ができる支援を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 イエローガーデン高瀬

作成日: 平成27年 9月10日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	遠方の方やあまり面会に来れないご家族からの意見や要望を聞きとる工夫が必要	遠方でなかなか面会に来れなくても、要望や意見を聞き、利用者も家族も安心して生活がおくれるようにする。	ご家族へのお知らせの配布や定期的な連絡を行う。 お知らせには、日々の様子を担当者が記入しご報告する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。